

旭ヶ丘

学園だより

No.6

編集・発行

高知高等学校

高知高等学校PTA

平成28年12月19日発行

教育の軸が変わる



学校長 森 暁

二〇一六年も残りわずかとなりました。子育て真最中の皆様方には、それぞれに喜びあり、ご苦労あり、時の流れのはやさを思わずにはいられない一年で

なかつたかと拝察いたします。四月には熊本を直下型地震が襲い、偉観を誇ってきた熊本城が無残に破壊されました。熊本県民の誇りを容赦なくくじく自然の厳しさです。続いては、

十月の鳥取地震。さらには、十一月早朝に起こった三陸沖の地震、津波が小規模だったとはいえ、その恐怖には私たちの想像を絶するものがあつたと思えます。しかも、これが、東日本大震災の余震であると考えなくてはならない現実こそ、あらがいのようないきびしいものがあります。

私たちは、目の前の課題や忙しにかまけて、こうした危機を思考から遠ざけて生活しています。

ます。しかし、土佐沖こそ、明日起きるかもしれない大地震を抱えています。そこで、私たちの力が試されることとなります。遠ざけようとする姿勢と科学的予測をどのように折り合いをつけた生活を送るか？ 凌ぐための努力として、常に、考える習慣や、生活を見直す習慣を持つ以外にないと考えます。

六月には、イギリスのEU離脱選択の国民投票が、世界を揺さぶりました。続いて11月、アメリカの大統領選の結果がアメリカ国民のみならず世界を揺さぶっています。誰もが「今後またたされる世界」が描き切れないジレンマの中にいます。これらの課題は、一見私たちの生活とは離れた問題のような顔をしていても、決して、私たちの生活から遠いところにある訳ではありません。生活のベースに関係する諸課題や価値観の問題にしっかりとつながっています。ここでも、知る力、考える力、行動する力が問われていくことはまちがいないでしょう。

十二月10日、東京工業大学栄誉教授の大隅良典先生がノーベル医学生理学賞を受賞されました。日本人の三年連続の受賞と

いう栄誉です。その大隅先生が二つの警鐘を鳴らしてくださっています。

一つは、「役に立つ」という言葉が社会をダメにしている」と語られていること。成果を急ぐあまり、成果が見えていないのにもかかわらずおとしめない風潮に対する警鐘です。今、成果が見えない、予想できないものを排除しない姿勢こそ、先に大きな転換をもたらす発見につながるというものです。

二つ目は、最近の若者の大学進学の実状に対する警鐘です。本年の東大の首都圏出身者の占める割合が55%（30年前の+8%）、東工大は75%（同+13%）、早稲田大は74%（同+22%）、慶応大は73%（同+17%）と高くなっており、いわば、「首都圏の地域大学」になりつつあるとの指摘です。こうした傾向は、地方出身者が地元の大学を選ぶ傾向、即ち、高知大学の高知県出身者の割合が増えている現象と軌を一にしています。

（もちろん、経済的な課題が背景にあることは明らかです。）大隅先生は、全国の大学が地域大学になり、「地域ごと」に自閉したサイクルをぐるぐると回すような状況になりつつあることを憂慮され、「日本の教育にダイナミズムを取り戻す」必要性を訴えておられます。

先生は、知的好奇心のおもむくままに純粋無垢に学び、考えることの大切さを強調されるとともに、進学に当たっては、舞台を広く、志を高く、ダイナミックな学びや進路選択が必要なことを教えてくださっています。これは、本校の生徒にとっても極めて大切な視点です。

リオのオリンピックでは、日本柔道男子が全階級で表彰台に上るという素晴らしい成果を挙げました。その監督を務め、次は、東京オリンピックでの活躍を目指して尽力されている井上康生氏が、金メダルを獲得した二人のチャンピオンの共通点を問われ、応じられた次の言葉に耳を傾けてみましょう。

「自立心だと思ふ。スタイルは全く違う二人だが、何をやるべきか、自らの戦いに何が必要か、考えがまとまっていたような気がする。外発的に詰め込まれるのではなく、自分自身で考え、理解し、全て言葉にできるぐらいの能力がないと五輪では勝てない。そうした能力の根源にあるのは知識だと思ふ。読書し、人の話を傾け、自ら体験を積み。知識が豊富であればあるほど、いろいろな考え方を有する。自らをコントロールし、マネジメントする能力がある選手だけが、四年に一度のその日を勝ち抜いていく。」

二〇〇八年にノーベル物理学賞に輝いた益川敏英先生が次のようなお話をしてくださっています。「水が半分入ったコップを傾けたとき、水面がどうなるかという問題を小中学生と高校生に解かせたときに、正答率が最も低かったのが高校生だったという話がある。少し考えれば答えはわかるはずなのに、受

験テクニックとして、〈見たことのない問題は次に移れ〉と教わっているから、多くの高校生がその言い分けを守って手をつけなかった。日本では長く教育を受けた者ほど考えなくなるのだ。」と。たいへん耳の痛い指摘です。

二十一世紀は皆様のお子様の世紀です。時代を生きるために、考える力を磨くこと、考える姿勢を持つことの重要性がいかに大切なか、どのトピックを見ても明らかです。

こうした事象や社会の変化に伴い、我が国の学校の学びが大きく転換しようとする動きが始まっています。「知識を使って考える」力の育成を重視し、「読む」「考える」「伝える」力を身につけることに軸を移そうとするものです。明治以来続いてきた知識伝達型の学校教育を転換することとは決して容易ではありません。教員にとっては、これまでの授業手法や授業展開を根本から徹しく見直す覚悟が試されます。これまでにない大きな教育改革と言えるでしょう。

しかしながら、私は、この改革の成功のためには、日々の生活全般における発想の転換が求められると考えます。例えば、家庭においても、日頃から体験を伴わせること、家族間できちんと言葉を大切にして、気持ちよく伝えることや説明を求めることなどです。仲間とのコミュニケーションでも、この姿勢が求められます。学校と家庭が力を合わせてこそ、この学びの転換のための環境が整うことにな

るでしょう。日本社会の教育の軸を変えようとする改革が始まろうとしています。

学園祭



私にとって今回が五回目の学園祭だったのですが、今年は初めて自分たちが運営する側の学園祭でした。二年前までは、二年に一度だった学園祭も私たちが高校一年生になった年から毎年おこなわれるようになり、さらには今年度からは後夜祭なども開催されるようになり、今学園の中で一番ホットな行事です。昨年まで私が楽しんでいたように、学園祭に参加する皆が楽しめるよう、裏方で頑張っている人の大切さと大変さが今回でよく分かりました。当日はもちろん、学園祭の始まる一ヶ

月以上も前から準備に取りかかり、学校内外でのスケジュール調整、備品の発注など、多くの先生方に尽力していただき、無事に成功することができました。多くの人たちの協力があったからこそ開催することができたということを忘れずに、来年度はさらにより良いものにしてもらいたいです。

高校前期生徒会長 矢野 椋也

私は、高校一年生の頃から学園祭実行委員を務め、今年は学園祭実行委員長を務めさせてもらいました。何をするのか慣れない状況の中、特活の先生方の助けや、運営を進めていく中で生徒会執行部の支えのもと、自分の仕事を果たすことが出来ました。これは、決して一人では為しえなかつた仕事であり、裏で支えてくれた多くの方々の大切さとありがたさに気づくことが出来ました。また、PTA

主催によるバザーや、高知リハビリテーション学院のブースなどもあり、大人から子どもまで楽しめる多彩な学園祭となつたのではないのでしょうか。さらには、今年からは後夜祭が加わり、学園生が楽しんでる姿を目に焼きつけることが出来ました。来年は今年以上に後輩たちが楽しい学園祭を作り上げていくことと期待しています。

学園祭実行委員長 植村 円



中学校運動会

今年の運動会は、一つ一つの色がとても団結しており、勝ちたいという気持ちが強く伝わってきました。特に今年は、黄色組が三年生のいない中でも三位と、自分たちでできることを精いっぱいやっていったのが印象的でした。それぞれの競技においても、皆力が入っていて、声が枯れそう

なくらい叫んで応援していて、本当に盛り上がり過ぎていたと感じました。最終的に順位が発表されたとき、喜んでいた人もいれば、悔しくて泣いている人も多くいました。今年の運動会は、本当に学校が一つになってできた運動会でした。

中学校生徒会長 都築 楓太



秋の遠足

〈高校三年生〉



〈高校二年生〉



〈高校一年生〉



三者協力会

平成28年度
三者協力会
「繋」

三者が協力する行事にあたり「繋」の中にPTAの文字を生徒会が入れてくれました。

11月26日(土)、『繋』(つながり)をスローガンに掲げ、PTA、生徒、教職員が力を合わせて学校内と学校周辺地域の清掃活動を行いました。三者とも繋がりを深めることができ、よりよい教育環境づくりと地域に根ざした学校づくりに汗を流すことができました。当日の参加者は、三者合わせて300人近く集まり、盛大に会を行うことができました。たくさんのご参加ありがとうございました。PTAの皆様は学校内を知っていただけでなく、地域のみなさんに学校の活動を理解していただくいい機会になったと思います。イベントだけでなく、普段からも協力を密にし、よりよい教育環境をつくれるよう尽力

していきますので、今後もしろしく願います。当日はお忙しい中、ご来校いただきありがとうございました。

総務部 竹内 雅也

三者協力会に参加してくださった保護者の皆様、私たち生徒と一緒に清掃活動に参加してくださりありがとうございました。普段手の届かないところまできれいに掃除していただき、清々しい気持ちになりました。今回のスローガンの「繋」でもありますように、私たち生徒と保護者、地域の皆様、先生方との間に更なる繋がりができたと思います。お忙しい中参加してくださった皆様、本当にありがとうございました。

後期生徒会長 福島 伊吹

私は、水泳部の一人として三者協力会に参加しました。今回も去年同様、学校周りのごみを拾いました。ごみはあまり落ちていないように見えて、たくさん落ちていたり、見えないように隠していたりと、気がつけばごみ袋の中身



2年3組 水泳部
井上 菜々

はいっぱいになっていました。私は、外まわりの班で一番短いルートだったのですが、線路沿いには空き缶やペットボトルがたくさんあり、手の届く範囲のものは頑張っ集めました。しかし、見落としもたくさんあったかと思いません。それでもみんなが、力を合わせて寒い中ごみを少しでも多く拾ったことは、近所の方々にとっても良いことだったろうし、「ありがとう」というお声もあつたのではないかなと思われます。その一言で、私たち生徒は、「頑張っ掃除してよかった!」と思えますし、ごみを拾うことは大変ですが、喜んでいただけるならまた次も頑張ろうと思えます。



僕がこのような結果を残すことができたのは、たくさんの方々の支えがあったからです。平先生不在のなか、県総体まではなかなか勝てないという状況が続きました。そんな時、毎朝OBの方々がかけつけてくれたり、山岡先生や高校の先輩方が胸をかしたりしてくれました。学校では、担任の岡田先生が、いつも月曜日の朝には新聞を見て、勝つていても負けていても声をかけてくれました。県総体・四国大会・全国大会の前には平先生も顔を出してくれ、弱気になってる自分を最後まで励ましてくれました。ここま

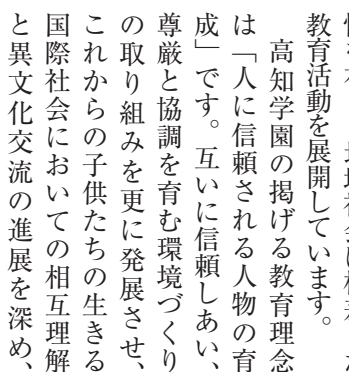


剣道部



今後は高校1年生からレギュラーに入ることを目標にし、インターハイにも行けるよう、挑戦者の気持ち忘れず頑張ります。応援ありがとうございます。高知中学校剣道部 3年 東野 一成

で頑張れたもう1つの理由は仲間の存在です。同じ3年の中島・浜田・田中・西川・篠女子1人でチームを引っ張ってきた下島たちと一緒に長野に行けたことが本当に嬉しかったし、安心して試合ができました。最終日には久保教頭が代理監督を務めてくれました。初めてのことから、きつと教頭先生の方が緊張しているはずなのに、一生懸命うちわで扇いでくれたり、冗談を言ってリラックスさせてりしてくれました。このように、みなさんの支えがあったからこそ、優勝できたのだと思います。



高知中学校剣道部 3年 東野 一成

11月13日(日) かるぽーと私立学校の成り立ちには、おのの創立者の建学精神と教育理念の理想と志があり、それらを生徒、教職員、保護者で守り、後継者として時代を超えて発展させ、歴史として受け継いでいくものです。私の子供の通う高知学園は、今年創立117年をむかえ、学内に幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短期大学、専修学校を運営し、総勢約2800人が在学する県内唯一の総合学園です。高知県の教育の活性化や資質向上に、極めて公共性を有し、地域社会に根差した教育活動を展開しています。



私学振興大会

高知学園の掲げる教育理念は「一人に信頼される人物の育成」です。互いに信頼しあい、尊厳と協調を育む環境づくりの取り組みを更に発展させ、これからの子供たちの生きる国際社会における相互理解と異文化交流の進展を深め、

グローバル社会に活躍する人材の育成を実践しています。学園生活で自主性と多様性を育んだ子供たちは、柔軟な想像力と幅広い視野をもち、世界のあらゆるステージで学園魂を発揮し、グローバルリーダーとして活躍するものと確信しています。

時代は常に激動しています。子供たちが修練によって磨いた知性を活用し、国の発展と文化の進展に貢献する人材を育成する。そこそが目指すべき教育の原点と目標であり、学校に望まれる社会的責任といえます。

常に一貫性を持ちながら、時代の変化に対応すべく、発展的教育を促進する私立学校の果たす教育的意義の必要性や重要性は、見直されるべきものではないでしょうか。

これからの未来を担う、一人ひとりの子供たちの可能性とチャレンジに向き合い、最大限に伸ばしていく教育活動の運営と実現のために、私学助成の継続と拡充に対し、ご理解とご協力をお願い申し上げます。私の発表とさせていただきます。

高知中学高等学校
保護者代表 恒石 英芽

オーストラリアとの学校交流が実現



12月7日、南オーストラリア州はAdelaide(アデレード)にある、Maryatville High School(マリアットヴィル・ハイスクール、以下MHSと略記)の中高生35名が4人の先生方の引率の下、広島を経由して本校を訪れた。一行は、同校で音楽コースに籍を置く中学生20名、高校生15名。高知での3泊4日を本校吹奏楽部員の15家庭と本校教職員の4家庭、いの混声合唱団の団員を中心とする5家庭で、ホームステイを引き受けてくださった。年末のご多忙な時期に、言葉の壁を乗り越える勇気をふるってくださった24家庭のホストファミリーの皆様には、

心から感謝を申し上げます。

彼らが高知で最初に体験したのが「カツオのたたき体験」。自らカツオを焼いて、それを食するというもの。包丁を入れたときに、中が赤い「生」の状態を見て、一瞬ひるんだ者もいたようだが、3名を除いて、完食したという。これには驚くとともに安心もした。

翌8日は、オレンジホールにて両校によるFriendship Concertを開催。同ホールは満席のお客様。前半はMHSの皆さんによるステージ。透き通ったコーラスで、オーストラリアの熱帯雨林や滝をイメージした曲や、日本の「ふるさと」「花は咲く」も演奏され、その美しさに聴き入った。また、オーケストラ演奏では、その音色の豊かさに耳を澄ました。

後半は、本校吹奏楽部の演奏。吹奏楽とカラーガード、ダンス、マーチングのコラボレーションの一条乱れぬ完璧さにMHSの「仲間」も釘付けになる。引率をされているアルデイス先生(副校長)はじめ4人の先生方も、その素晴らしさを何度も賞賛してくださった。両校がその持ち味を存分に披露する形で、三時間近くかかった演奏会も、その長さを感じる間もないほどに、味わい深いコンサートになったと思う。聴いてくださったお客様は温かさにも感謝でいっぱいです。

9日は、土佐和紙工芸村で紙すき体験をした後、本校へ。弓道場では実際に弓を引き、剣道場では竹刀を握って打ち込みも体験、柔道場では道着を着用して投げ技を体験するなど盛り上がった。

最終日の10日は、朝、ホストファミリーに送られて学校に集合、涙ながらのお別れとなる。言葉の壁はあっても、音楽での交流はもちろん、4日間の触れ合いを通して、お互いの心が通い合い、世界が広がったことは間違いないと思われる。



このたびの交流の余韻が、いつの日か、また新しい花をつけ、実を結ぶことを期待したい。京都より広島より東京をめぐる旅程の中に、3泊4日という高知訪問を組み込んでくださったアルデイス先生に、そして、このプログラムを支えてくださった全ての方々に改めて深く感謝申し上げます。



平成28年度 7月以降のクラブ成績

水 泳 部

県高校総体		
本田翔規	200m個人外泳	優勝
	400m個人外泳	優勝
四国高等学校選手権		
本田翔規	400m個人外泳	優勝
日本高等学校選手権		
本田翔規	400m個人外泳	出場
高知県学年別大会		
光森 白	50m自由形	2位
	100m自由形	2位
	50mバタフライ	3位
本田翔規	200m背泳	優勝
	200m個人外泳	優勝
	400m個人外泳	優勝
西山湧也	50m平泳	優勝
	100m平泳	優勝
	200m平泳	優勝
松岡 迅	50m平泳	2位
	100m平泳	2位
井上菜々	200m自由形	3位
	50mバタフライ	2位
武田梨々子	100m自由形	3位
植田満帆	100m平泳	2位
	200m個人外泳	2位

サッカー部

高円宮杯 U-18 サッカーリーグ	
2016 高知県1部リーグ	2位
高円宮杯 U-18 サッカーリーグ	
2016 高知県2部リーグ	2位

男子硬式テニス部

高校四国総体	
団体戦	3位
高知県テニス選手権大会	
18歳以下シングルス	
優勝	市川大誠
準優勝	宮脇 誠
18歳以下ダブルス	
優勝	市川・宮脇
16歳以下シングルス	
準優勝	岩瀬京路
16歳以下ダブルス	
準優勝	上村・岩瀬
夏季ジュニアテニストーナメント	
シングルス	
優勝	岩瀬京路
準優勝	上村洋平
ダブルス	
優勝	上村・岩瀬
高知県新人テニス大会	
団体戦	優勝
ダブルス	
優勝	上村・岩瀬

女子硬式テニス部

高知県テニス選手権大会	
18歳以下シングルス	
2位	小原更紗
3位	宮本海音
18歳以下ダブルス	
優勝	鈴木友萌・小原更紗
16歳以下シングルス	
優勝	田所千明
3位	山崎有花
16歳以下ダブルス	
3位	田所千明・濱崎 葵

夏季ジュニアテニストーナメント大会

シングルス	
2位	田所千明
3位	小原更紗
3位	山崎有花
ダブルス	
優勝	小原更紗・田所千明
3位	山崎有花・濱崎 葵
高知県新人テニス大会	
団体戦	優勝
シングルス	
優勝	田所千明
3位	小原更紗
3位	山崎有花
ダブルス	
優勝	小原更紗・田所千明
3位	山崎有花・濱崎 葵

剣 道 部

高知県高等学校剣道秋季新人大会	
(全国選抜予選)	
男子個人	優勝 東野一気
女子個人	優勝 酒井香菜子
	3位 佐竹蘭
	3位 寺村朱理
男子団体	優勝
	(全国選抜大会出場)
女子団体	優勝
	(全国選抜大会出場)

卓 球 部

四国大会出場	団体
ダブルス	林・是枝組
シングルス	林

少林寺拳法部

全国高等学校総合体育大会	
女子組演武	
出場	岩村真佑・中山あや
女子単独演武	
出場	濱田歩夏
高知県高等学校少林寺拳法秋季大会	
兼 全国高等学校少林寺拳法選抜大会	
予選	
女子組演武	
1位	岩村真佑・中山あや
	(全国選拔出場)
女子単独演武	
1位	濱田歩夏
	(全国選拔出場)
男子組演武	
2位	中川博喜・津野龍生
	(全国選拔出場)
3位	須賀広太・市川貴也
男子単独演武	
2位	河野雅仁
	(全国選拔出場)
男子団体演武	2位

相 撲 部

高知県高等学校夏季相撲選手権大会	
学年別個人戦	
1年生	3位 竹村輝人

柔 道 部

四国高等学校柔道選手権大会	
・男子個人 100kg級	
2位	福井 悠雅 (高3)

全国高等学校総合体育大会

男子個人	
100kg級	
福井悠雅(高3)	出場
100kg超級	
北村昂之祐(高1)	出場
女子個人	
48kg級	
山本れい(高2)	出場
63kg級	
植村 円(高3)	出場
高知県高等学校柔道新人大会	
男子団体	2位
女子団体	2位
男子個人	
81kg級	
優勝	石村光基(高2)
90kg級	
2位	金枝将太郎(高2)
100kg級	
優勝	北村昂之祐(高1)
100kg超級	
2位	原 功成(高2)
女子個人	
57kg級	
2位	植村 巴(高1)

バレーボール部

四国選手権大会	準優勝
県高校夏季大会	優勝
岩手国体出場	福留悠太 濱口 綱
全国高校バレーボール選手権大会	
県予選優勝(春高バレー出場)	

陸 上 部

国民体育大会(いわて国体) 高知県選手選考会	
3年 坂上友介	
走幅跳(少年男子 A)	優勝
1年 下元愛琉	
走幅跳(少年女子 B)	3位
高知県高等学校新人陸上競技選手権大会兼四国新人予選会	
1年 谷 圭太	
三段跳 第4位 (四国大会出場)	
1年 下元愛琉	
三段跳 第4位 (四国大会出場)	

弓 道 部

弓道冬季選手権大会	
男子団体	準優勝

空 手 部

全国高等学校空手道選手権大会	
女子個人組手 川村 羽生	
高知県高等学校空手道冬季大会	
男子個人組手	
岩井隆明	4位
	(四国大会出場)
女子個人組手	
川村羽生	2位
	(四国大会出場)
辻 観玲	3位
	(四国大会出場)